



インフォームド・コンセント

「説明と同意」だけでは不十分！？

先日、患者さんのご主人（70代後半？）から「“確かに延命治療はよろしいわ”と言ったけど、心臓マッサージも電気ショックもしてくれへんかった」と言われました。インフォームド・コンセント（IC）に同席されていた長男、長女さんは理解されていまして、当該事例において当院に落ち度（法的責任）はないと思われませんが・・・。

患者さんやご家族は、いろいろな用語自体はご存じなので、説明時に質問はされないものの、医療側の意図とは異なったことを頭に思い浮かべておられることがあります。何か悪いことが起こった時に初めて「そんなこと聞いていない！」という食い違いが表面化します。インフォームド・コンセント（IC）に限らず、こちらから何かを説明する場合には患者さんやご家族に分かりやすい言葉、時には文字や図、写真などを使い、説明の途中や終了時に「質問はありませんか？」や「分からないことはないですか？」などと確認しましょう。

【インフォームド・コンセントとは】（informed・consent = IC）

患者さん、ご家族が病状や治療について十分に理解し、また、医療職も患者さん、ご家族の意向や様々な状況や説明内容をどのように受け止めたか、どのような医療を選択するか、患者さん、ご家族、医療職、ソーシャルワーカーやケアマネジャーなど関係者と互いに情報共有し、皆で合意するプロセスです。（公益社団法人 日本看護協会 HP より引用）